

センターだより



阿南市青少年健全育成センター No.166 (令和3年度 秋号)

令和3年9月22日

② 『児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』(令和元年度)〈文科省〉

小中学生を対象として、**不登校の児童生徒がなぜ学校へ行かなくなったか**を調べた結果があります。

このうち、「学校に係る状況」という分類に注目すると、**不登校になるきっかけとして一番多いのは「いじめを除く友人関係をめぐる問題」**で、中学生について言うと調査対象の**17.2%**がこのケースに該当するという結果です。「いじめ」を不登校のきっかけとするケースが**0.3%**ですから、それよりもはるかに多いです。小学生でも、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」のほうが、「いじめ」をきっかけとする人数よりずっと多くなっています。

一般的な印象としては、**いじめがきっかけで不登校になるケースが一番多いのではないか**と思いがちですが、**実はそうではない。このデータからもやはり友達の存在が非常に重要であることがわかります。**

(2) 周囲との関係を重視する子どもたち

③ ベネッセ教育研究開発センター

人間関係の変化を示すデータをもう一つ紹介しましょう。小学生から高校生を対象に、「**あなたは仲間外れにされないように周りに話を合わせますか**」と訊いた調査では、どの学齢でも、話を合わせる傾向が高まってきていることがわかります。小学生の場合、話を合わせるという子どもが**2004年には46.7%**だったのが**2009年には51.6%**と、2人中1人以上まで増えています。**中学生も43.3%**が**44.4%**に、**高校生も39.1%**が**41.1%**にとそれぞれ増加——実に**4割以上の子ども達が、自分の意見を言うよりも周囲に合わせることを選んでいる**わけです。これは少し古いデータですが、同じアンケートを今とると、たぶんもっと高い数値が出るのではないかと思います。このように、

自分の意見を言わず、周囲の人に自分がどう見られているかなどと**周りのことを考えながら日々行動するには、SNSが必要になってくる**のです。

少なくとも子どもたちにとってはそうです。人とのつながりを求める気持ちだったり、または友達との関係に対する不安だったり、そうした心理を背景として、

人と人とのつながりのために、インターネットやスマホやLINEなどを用いたソーシャルコミュニケーションが必要なのです。

「周囲を、友だちを、大切にすること」に何ら異を唱えるつもりはありません。むしろ望ましいことです。しかし、その方法にはSNSが主流になり、その**SNSの利用によって友だちとの近すぎる距離感に生きづらさやストレスの増大、また真の友達ができない子どもたちが増えているという事実も見逃せません。**

SNSは子どもたちには欠くことができないもの、「これからの時代、ネットを活用しないと生きていけません」という言葉は大げさなものではなくなっています。しかし、そのSNSによって傷つけられてしまうことも。そんな葛藤の中で神経質になりながら生活している現状があります。

子どもたちの気持ちがこんなふうにとんどん変化していることが今という時代の特徴の一つで、それが依存の問題にもつながってきています。寄せられる相談の中でも、twitterやLINEがやめられないといった、ソーシャルメディア絡みのものが増えてきています。

この傾向は今後ますます顕著になっていくでしょう。

3 ごあいさつ

この度、入江指導員が8月末日をもって退任いたしました。お世話になりました。9月1日から、新指導員として**近藤 幸博**(本年3月羽ノ浦小学校長を退職)が着任いたしました。変わりませずよろしくお願い申し上げます。

1 健全育成啓発街頭キャンペーン



本年度、協議会で新たに「のぼり旗」を作製し各地区へ配付しました(写真右下)。「**あいさつで広がる笑顔 地域の輪**」を掲げ、7月28日アピカ店で、各14地区の阿南市青少年健全育成協議会の人々が参集し「青少年非行防止啓発グッズ」の配布と呼びかけを3ヶ所に分かれて行いました。猛暑の中、急な声かけに、買い物の途中でも立ち止まって話を聞いていただき、ありがとうございました。

2 シリーズ「ネット依存」②

前回、ネット依存の現状を寄せられた相談内容を見ることで少し明らかにしてきました。「**スマホから離れられない**」「**ゲームにのめり込んでいる**」「**暴力**」等の実態を紹介しながら、解決策等も提示してみました。今回は、さらにネット依存が深刻化しつつある原因の一端について掘り下げて考えてみたいと思います。

(1) 子どもたちが変化している

以前は、テレビに出てくるヒーローは、どちらかという一人と戦うことが多く、アイドルでも昔は一人が多かったようです。ところが今はグループで戦うヒーローやグループで活動するアイドルが多くなっていて、いろいろなところで**集団や仲間や友達が大事という風潮がすごく高まっています**。大人気アニメのヒーロー、**ワンピースのルフィ**は、「**仲間だーっ!**」が口癖です。子どもたちの間でも同様の傾向が強くなっています。

① 『子供・若者白書』(内閣府)

子どもたちが自分にとってどんなことを大切だと思っているか調べたデータがあります。小学5年生から高校生までを対象に、「勉強ができる」とか「お金がたくさんある」といった選択肢を示して、この中で**一番大切なものは何か?**と訊ねたアンケートで、

「友達がたくさんいる」と答えた子どもがとても多いのです。学齢によっていくらかばらつきはありますが、たとえば「勉強ができる」を選んだ子と比べると、「友達がたくさんいる」はその2倍以上と、大きな差がついています。ここには、

友達の存在を特に大事に思う現代の子どもたちの意識が現れています